

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成29年6月8日 (2017.6.8)

【公開番号】特開2016-184161(P2016-184161A)

【公開日】平成28年10月20日 (2016.10.20)

【年通号数】公開・登録公報2016-060

【出願番号】特願2016-44449(P2016-44449)

【国際特許分類】

G 1 0 K 11/16 (2006.01)

F 0 1 N 1/24 (2006.01)

G 1 0 K 11/162 (2006.01)

【 F I 】

G 1 0 K 11/16 B

F 0 1 N 1/24 A

F 0 1 N 1/24 F

G 1 0 K 11/16 A

【誤訳訂正書】

【提出日】平成29年4月21日 (2017.4.21)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

繊維材料を含んでいる、消音、吸音または遮断用の成形材料であって、
前記繊維材料は、ガラス鉱物繊維、炭素繊維、またはケイ酸塩ガラス繊維、またはこれらの繊維の混合物であり、

前記成形材料は、前記繊維材料が、互いに離隔されている少なくとも 2 つの支持体の周りに巻きつけられることで得られた巻線ブランクであり、前記巻線ブランクは、前記少なくとも 2 つの支持体上に存在したままで結合剤なしで永続的に固化されており、前記繊維材料は、テキスチャード加工された材料である、

成形材料。

【請求項 2】

前記繊維材料は、メイン系が張力のない方法でベース系の周りにテキスチャード加工された材料である、請求項 1 に記載の成形材料。

【請求項 3】

前記巻線ブランクは、空気交絡、スティッチング、リンキング、ノッティング、ニードリング、フェルティングまたはクロシェット編みのいずれかによって固化されている、請求項 1 又は 2 に記載の成形材料。

【請求項 4】

前記繊維材料は、連続繊維材料および短繊維材料の組み合わせおよび / または異なる繊維材料および繊維長さの組み合わせを含み、および / またはロービングおよび / または紡績系および / または撚糸および / またはテキスチャード加工された繊維および / または単繊維の形態をとる、請求項 1 ないし 3 のいずれか 1 項に記載の成形材料。

【請求項 5】

前記成形材料は、成形マットまたは成形体である請求項 1 ないし 4 のいずれか 1 項に記載の成形材料。

【請求項 6】

前記成形マットまたは成形体は、中空である、請求項 5 に記載の成形材料。

【請求項 7】

請求項 1 ないし 6 のいずれか 1 項に記載の成形材料を有するマフラー。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 0 9

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 0 9】

請求項 1 の前提部分の特徴を有する成形材料と対応のマフラーを提供するという課題が、本発明の基礎になっている。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 1】

本発明の上記課題は、本発明により、請求項 1 の特徴を有する成形材料およびマフラーによって解決される。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 2

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 2】

消音、吸音および / または遮断用の成形材料（この成形材料は繊維材料を含む）を製造するための方法では、第 1 の段階で、巻線ブランクを製造するために、繊維材料を、互いに離隔されている少なくとも 2 つの支持体の周りに巻きつける。次に、第 2 の段階では、消音、吸音または遮断用の成形材料を形成するために、まだ支持体に位置している、かくして得られた巻線ブランクを永続的に固化する。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 3 4

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 3 4】

本発明により製造された成形品は、既存の半製品に比べてより大きな容積を有する。容積増加の度合い（製品の密度）には、更に、巻線（巻線の種類、巻線の密度等）と、少なくとも 2 つの支持体への巻きつけによる本発明に係わる製造方法の故の、続いての固化とによって影響を与えることができる。このような容積増加の正の影響は、特に、使用される繊維材料が、メイン糸が張力のない方法でベース糸の周りにテキスチャード加工された、いわゆる効果的にテキスチャード加工された材料として適用されるとき、達成することができる。従って、使用される材料の減少は可能であり、同時に大きな容積が可能であるのは好ましい。